

神戸昇天教会月報

☎652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 341-4490
FAX (078) 341-4539
http://nssk-kobeshoten.org/ 口座振替 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- 聖書と聖歌に親しむ。
- ホームページの活用。
- 信徒一人ひとり教会活動に参画しよう。
- 地域との交流促進。

聖語

キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。(エペソ2:22)

8月のカレンダーから ～召された人々を覚えて～

神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。(ヨハネによる黙示録21:3-4)

司祭 ミカエル 小南 晃

神戸昇天教会の周りでは8月を迎えるのを待っていたかのように、一斉に蝉が鳴き始めました。これでもかというほど暑く眩しい日差しと、喧しいほどの蝉の声に、まさに夏本番という感じがします。

夏はすべての生き物がその生命力を謳歌する季節ですが、同時にこの8月は、私たちにとっては死者を覚える季節とも言えます。

お盆の季節

まずは8月13日から15日のお盆です。勿論、キリスト教の逝去者記念の季節とは違います。しかし仏教において、それ故一般社会においては、この時に一番亡くなった方を覚えるのではないのでしょうか。殊に亡くなって初めて迎えるお盆は初盆、新盆として大切に守られるようです。

当教会では昨年の8月以来、5人の兄弟姉妹と岡崎 正司祭様が天に召されました。そのすべての方々ではありませんが、仏教で言う初盆を迎えることとなります。

勿論、教会において、またキリスト教においてこの時期に何か特別な礼拝をするわけではありません。教会の逝去者記念の季節は11月であり、また当教会では

復活節の第2主日にも逝去者記念の日を設け、すでにその時に昨年来天に召された方々も歴代逝去者の方々とともに記念し、祈りの内に覚えました。

そうしますとキリスト教と仏教では、亡くなった方を覚える時期が違うだけで、基本的に変わらないということでしょうか。

聖徒の交わり

それはやはり違うと言わざるを得ません。それではキリスト教と仏教では、亡くなった方を覚える仕方においてどこが違うのでしょうか。

お盆の時には亡くなった方の霊がこの世に帰って来る、それを迎え、また送り出すと言われます。

このある特別な時に、亡くなった方々が私たちのところに来られるというのは、キリスト教本来の教えにはありません。むしろ私たちは、いつでも主にあって、世にいる人々も、世を去った人々とも聖徒の交わりの内にあるという信仰に立っています。ことに主日ごとの聖餐式においてそのことを覚えていきます。ですから毎週、逝去者記念の時を持っているとも言えるでしょう。

広島、長崎の原爆の日

また8月は、お盆以外にも死者を覚える日、と言うより覚えざるを得ない日があります。6日の広島原爆の日、9日の長崎原爆の日です。今から72年前のその日、一瞬の内に何万人の人々が熱線で焼かれ、爆風に吹き飛ばされ、放射能を浴びて惨い死を遂げました。

人の死には天寿を全うしての大往生と呼ばれる死があると同時に、原爆犠牲者やその他の戦争、テロ、災害などによる「無念の死」としか呼びようのない死もあります。

イエス・キリストが引き受けられた十字架の死はまさに「無念の死」でした。それはキリストがそうした無念の死を遂げた多くの人々のその無念をもその身に担って下さり、そして復活されたことは、そうした無念を、復讐などではなく、本当の意味で完全に晴らして下さるということではないのでしょうか。

神はきっと「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる」ことでしょう。

終戦記念日

8月15日は終戦記念日です。この日は今から72年前、敗戦によって終結した日中戦争、太平洋戦争のすべての犠牲者のために祈り、戦争の愚かしさを確かに心に刻む日です。

私たちがすべての戦争犠牲者の死を空しくせず、平和な社会、世界をつくりだす器となり、「終戦」という言葉が、全ての戦いの終りであるという意味となるよう祈り、努めて参りたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)